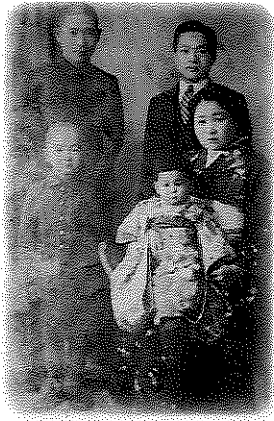


【戦後70年 いつまでも平和に】

交陽商事(株) 武 富 正 廣

この年に生まれた人が、古希を迎え戦争を知っている人がだんだん少なくなりました。戦争が終った時、660万人の日本人が外地にいたそうです。

私はこの時旧満洲ソ連に近い北満の鶏寧で国民学校4年生、この満州国も建国から13年5ヶ月で終戦により中国に戻りました。1945年8月9日午前0時、ソ連は日ソ不可侵条約を破り三つの軍団で満州を攻撃、戦車5,250輛、飛行機5,170機、兵力175万人、かつての関東軍精鋭が残っていたとしても勝ち目はなかったと聞きました。若い青年が終戦も知らずに特攻で玉砕したのも痛ましい限りです。ソ連はやりたい放題、略奪、凌辱、銃口を突き付け暴行、母が断髪して男に変装した顔が今でも忘れられません。



ハルビンで、玉音放送を聞き、それから南下の旅どのくらい歩いたでしょうか。家もない食べ物もない放浪の旅です。途中で亡くなる人も死骸もごろごろウジ虫が湧いているこの情景は心底に焼き付いております。

コ口島からたくさんの予防注射を打たれ頭

は真っ白に消毒剤をかけられ貨物船に乗って久しぶりに食べた白米のお粥はうまかった。舞鶴についたのは、1946年七夕の日でした。家もない約1年よくぞ運よく生きていたものです。両親に心から感謝です。

国会で今秋安保法案が可決されましたが、二度とこうした戦争だけはしてはいけません。母の兄弟も5人が南方で戦死しています。戦争は殺しあいです。戦争だけはやめましょう。日本の為に、そして子孫の為に。

近隣諸国とは仲良くしましょう。生まれた新義洲(旧朝鮮、現北朝鮮)から鴨緑江を渡り安東、沙河鎮、東安、鶏寧、蘇家屯、運河、奉天(いずれも旧満洲)そして佐賀と9つの学校を歩いてみたい。

追記

時間があつたら、府中稲城支部のホームページに機関紙同舟が保管されています。

支部広報部長時代の記事で昭和57年3月号12ページ、「中国残留孤児におもう」を開いてみて下さい。

